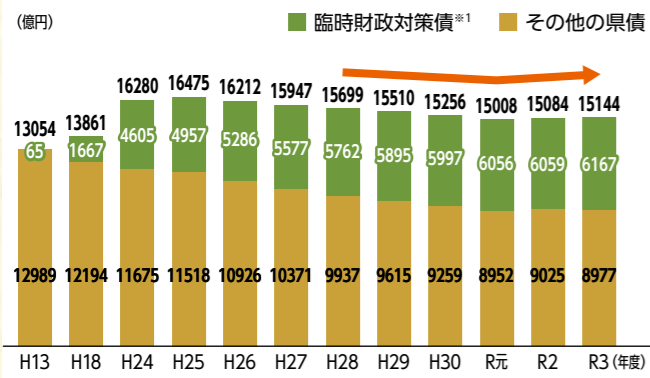


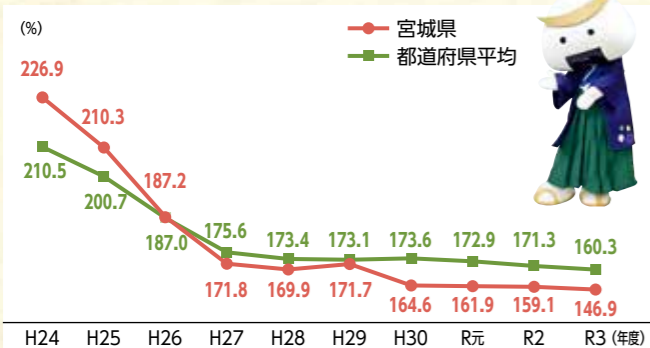
借金は2年連続増加



県の借金である県債残高は、臨時財政対策債が増加したことにより2年連続で増加しました。今後、より一層適正な管理が求められます。

※1 国の財政事情により交付されなかった地方交付税の代わりに発行する県債。後年度に国が交付税を措置して返済する。

都道府県平均を下回る将来負担



将来、財政を圧迫する可能性の度合いを示す将来負担比率^{※2}は146.9%で、7年連続で都道府県平均を下回っています。

※2 高いほど借金(県債)や将来支払いする可能性のある負担などの割合が高い。財政状況悪化により財政の健全化が必要となる基準は400.0%。

「宮城の将来像」の実現と持続可能な財政運営に向けて

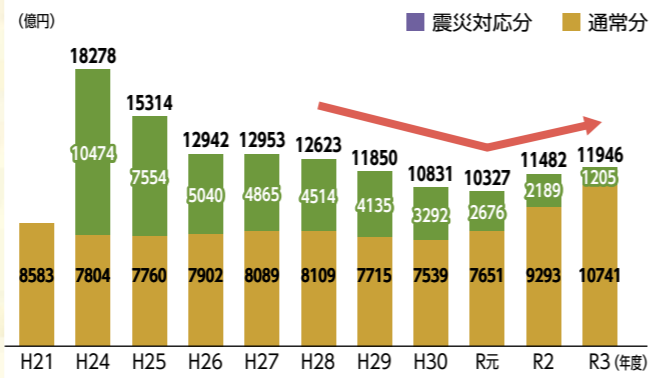
東日本大震災からの復旧・復興に向けては、被災者一人一人に寄り添った切れ目のない支援や、震災の記憶や教訓を風化させることなく伝承していくための息の長い取り組みが必要です。

また、若者の県内定着や子育てを支える環境整備など、本格的な人口減少局面を見据えた施策に加え、社会保障関係経費や多様化する自然災害への対策などさらなる財政需要が見込まれるため、県財政を取り巻く環境は引き続き厳しいことが予想されます。

今後も、「みやぎ財政運営戦略(第3期)」に掲げる歳入確保・歳出削減の取り組みを着実に実施し、「新・宮城の将来ビジョン」に掲げる「宮城の将来像」の実現と持続可能な財政運営に向けて、全力で取り組んでいきます。

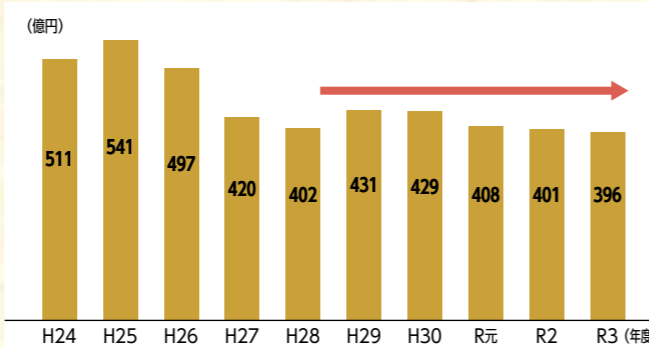
問 財政課 ☎022(211)2312

2年連続 歳出増



「新・宮城の将来ビジョン」の初年度である令和3年度は、震災対応分の歳出は減少しましたが、通常分として新型コロナウイルス感染症対策費が増加し、全体では2年連続で増加しています。

貯金は微減



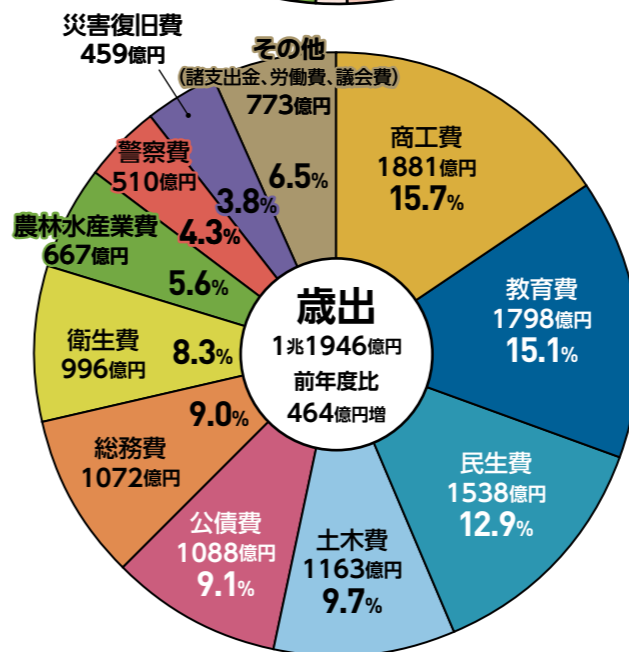
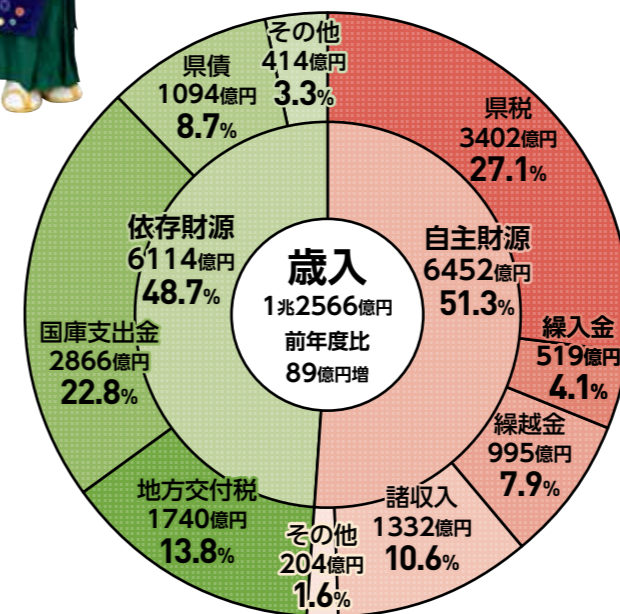
県の貯金に相当する財政調整関係基金の残高は396億円と、前年度と比べて5億円の減少となりました。H29年度以降減少傾向ではあるものの、比較的安定した推移を保っています。

柔軟な予算配分が難しい状況が続く

県が自由に使えるお金のうち、人件費や借金返済に充てるお金(公債費)など、支出が避けられない必要な経費が占める割合(経常収支比率)は、89.0%と依然として高くなっており、柔軟に予算を配分することが難しい状況が続いています。

令和3年度の全国平均は87.3%です。

令和3年度の決算額



(注)項目ごとの四捨五入のため、合計が一致していません

令和3年度は以下のような施策に特に力を入れました。

- ◆新型コロナウイルス感染症対策と県内経済の再生
- ◆震災復興の完了に向けた施策
- ◆子育て支援や教育・福祉の充実、各分野における人材確保対策やデジタル改革の推進などの県政の課題解決に向けた施策



置き型授乳室



新型コロナウイルスワクチン大規模接種会場

令和3年度普通会計決算



仙台・宮城観光PRキャラクター むすび丸